

	一般的名称	報告の概要
658	硫酸アバカビル	HIV患者33347例を対象としたプロスペクティブ研究において、アバカビルやジダノシン投与により、心筋梗塞発現の増加させることが示唆された。
659	アスピリン	グルコース6リン酸脱水素酵素欠損小児20例のうち、chloroquine単独9例、chloroquine/クロラムフェニコール/アスピリン併用1例、chloroquine/アスピリン併用3例、アスピリン単独4例が血管内溶血を発現し、20例のうち11例が腎不全を発現した。
660	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	明らかな心血管系疾患のない女性において、経口避妊薬を長期(10年間)使用した場合、頸動脈プラーク、大腿動脈プラークの保有率が高まることが示唆された。
661	ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル	ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステルを用いて肝動脈塞栓療法を実施した14名において、悪心、血清アルブミン減少及び血小板減少が見られた。
662	リン酸オセルタミビル	2006/2007年に迅速診断キットにてインフルエンザAあるいはBと診断された患者948例を対象とした調査において、インフルエンザBではオセルタミビルあるいはザナミビル水和物の有用性が確認されなかった。
663	リン酸オセルタミビル	H5N1型インフルエンザ患者16例を対象とした調査において、リン酸オセルタミビルによる治療は明らかな治療効果が得られなかった。
664	リスペリドン	3ヶ月以上の間すくなくとも1種の抗精神病薬を使用している患者の遺伝子多型を解析したところ、HTR2C遺伝子の変異体は、リスペリドンを使用している患者で代謝症候群と特異的な関連性のあることが示唆された。
665	ジクロフェナクナトリウム	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
666	リスペリドン	10名の健康男性において、リスペリドンとリファンピシンの併用により、リスペリドンとその活性代謝物の血中濃度が低下することが示唆された。
667	エダラボン	in vitroにおいて、膀胱癌細胞株をエダラボン及びプテリン誘導体存在下インキュベートしたところ、活性酸素が誘導され、細胞死を誘発すること示唆された。
668	ジクロフェナクナトリウム	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
669	イブプロフェン	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
670	リセドロン酸ナトリウム水和物	患者データベースを用いて65歳以上の心疾患を有する無腐性骨壊死患者196例、コントロール1960例のケースコントロール研究において、ビスホスホネート製剤投与により無腐性骨壊死のリスクが高まることが示唆された。
671	オメプラゾール	冠動脈ステント留置後にアスピリンおよびクロピドグレルを投与している患者126名において、オメプラゾンの併用により抗血小板作用が現弱することが示唆された。
672	ロピナビル・リトナビル	健康成人88例を対象としたクロスオーバー無作為化オープンラベル試験において、ロピナビル/リトナビルの投与によりPR間隔が延長することが示唆された。
673	リトナビル	健康成人88例を対象としたクロスオーバー無作為化オープンラベル試験において、リトナビルの投与によりPR間隔が延長することが示唆された。